教育委員会だより

<めざす子ども像>
お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子

令和８年１０月２２日号 多治見市教育委員会 教育総務課

地域とともに主体的に学ぶ

～多治見中学校研究発表会～



１０月１９日（月）に多治見中学校の研究発表会が開催されました。これは、多治見市教育委員会の指定を受け、２年にわたる教育実践の成果を公表する機会となります。市内小中義務教育学校の先生方を中心に、市外からの参加を含め２２０名程度の参加者がありました。地域の方や市議会議員の皆様にもご参加いただき、生徒が主体的に学ぶ姿を参観していただきました。

今回の発表で特筆するとするならば「学校運営協議会の発足とともに、地域と校内研究を結びつけることができないか？」という視点をもって研究に取り組んでいただいたことかと思います。

国語科の授業では、区長さんや学校運営協議会の委員さんなど４名が授業に参加し「多治見中学校区わくわくプラン」を小集団で話し合う学習が展開されました。地域の方から「地域の思い」や「中学生への期待」を聞く中で、地域の課題を自分事としてとらえながら、大人も子どももわくわくする計画を真剣に考え、自分の意見を明確に主張する姿に、参観者からも感嘆の声がありました。

保健体育科の授業では、地域のダンス講師をお招きして、自分たちで工夫した動きがより良いものになるようグループダンスをブラッシュアップする学習が展開されました。講師に「ここの動きをこんな感じで変化させたいので、アドバイスをください」といった、自分たちの目的にあった問いかけがあり、主体的に学ぼうとする意欲が感じられました。

これらの授業から、多治見中学校では、「授業を受ける」という受け身の学習ではなく、一人一人の生徒が「学習の主体者」として学び続けようとする姿の実現に向けて授業改善を進めてきてくださったことを明確に感じ取ることができました。これは、文部科学省が示す「主体的・対話的で深い学び」につながる素晴らしい実践であったと思います。その一つの手がかりとしての「地域力の活用」です。もちろん、全ての授業で地域を活かすような場面を作り出すことはできませんでした。それでも、地域を活用した学びの良さを参観者は感じたはずですし、新たな可能性を見たと思います。

市内各校の授業の在り方に一石を投じた素晴らしい発表会だったと感じます。多治見中学校の先生方の歩みに改めて敬意を表します。ありがとうございました。

熱い思い　～Ｒ８ 第１回総合教育会議～

９月２５日、今年度１回目の総合教育会議が行われました。総合教育会議とは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育大綱や、教育を行うための諸条件の整備等、重点的に講ずべき施策等について協議を行う会議と定められ、地方公共団体の長である多治見市長が招集するものとなっている重要な会議です。これまで、不登校問題や教職員の働き方改革等、現在の教育課題について議論がなされてきました。今年度第１回目の議題は「水泳授業の在り方」です。昨今、ニュースや新聞等で取り上げられていますが、学校プールの老朽化に伴い、その在り方について「民間委託」が話題となり、各市においても民間委託が始められています。文部科学省からも通知が出される喫緊の教育課題です。

現在、多治見市は県内でも珍しい「すべての小中義務教育学校にプールが整備されている」市です。また、中学校の水泳授業は「座学のみ」という市が多くある中、全ての中学校で実技指導を実施しています。児童生徒に水になれる体験や、いざというときに自らの命を守る行動ができる可能性を広げるためにも、実技指導にこだわって教育活動を展開してきた本市です。その姿勢を堅持しつつも「持続可能な水泳授業の在り方」については検討が必要です。委員の皆様からは、それぞれのお立場で、積極的にご発言いただき、熱い思いを語っていただきました。

今後、保護者の皆様へのアンケート等を実施し、地域の声も聴きながら、多治見市の水泳授業の在り方について、方向性を確定して参ります。

よろしくお願いします　～教育委員さん再任～

教育委員の鈴木亜紀子さんが９月末日をもって４年の任期を終えられました。９月議会にて、再任の議決がなされ、２期目をお勤めいただくこととなりました。これまでも、教育長訪問への同行や教育委員会会議での積極的なご発言をいただいておりましたが、さらに４年間、本市の教育行政に関わっていただけることとなりました。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

併せて、仙石教育長も再任の議決をいただきましたこと、ご報告申し上げます。